

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大口めぐみの里
(ユニット名)	一号棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大口市曾木480番地
記入者名 (管理者)	米島瑞穂
記入日	平成 19 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と安らぎを取り入れその人らしく生活できることを目的として作り上げられている		これまでの理念に加え、地域密着型サービスの役割を含めた内容にする。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼、定期的なミーティングの中で理念の唱和を行い、確認と実践に取り組んでいる。		理念の共有を再確認しつつ、充実した日々の生活支援が継続できるよう取り組む努力をする。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会やホーム便り、パンフレットなどを活用し報告していただけるよう工夫している。		ホーム来客者、面会者また地域住民の方々へも、いつでもホーム便り、パンフレットなど見ていただけるようにしていく。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的なあいさつや会話、回覧板を回すなど、近所の方々との交流を図っている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民会に参加し、できる限り行事など参加するように務めている。又小学校の児童の訪問やボランティアの協力があり、ホームから学校へ入所者手作りのお手玉や雑巾等届けるなどの交流を行っている。		地区の学校行事などにも利用者とともに参加するようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成のための実習生の受け入れや地域の研修会、会合などに参加しながら認知症ケアの啓発に努めている。		地域の集りに出席する機会を増やし利用者の不安やプライバシーに考慮しつつ事業所の成果を伝えたり、高齢者のケアサービスの向上、推進に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をミーティングで話し合い勉強会を重ね結果が報告されたあとは、改善に向けての検討会や実践につなげる努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、現状報告や意見交換、問題点などの具体的な話し合いなど充実した内容での討議がなされている。		テーマを設けた話し合いができるようにしたい。又会議の中で様々な意見交換ができ今後もそれをサービスの向上に役立てたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のケアサービス上、判断に困った時や課題等あるとき相談し解決を図っている。又事業所の考え方、実情を知ってもらうこともお互いの連携、相互理解につながる。		折に触れ市職員の方と利用者の交流も行えれば、連携が深まりサービス向上につながると思われる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会の開催時、説明をおこなったり、又対応が必要と思われる利用者には、そのつど管理者から説明、アドバイスをおこなっている。		全体での勉強会を持ち、職員相互の理解を深めるようにして、誰でも支援できるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	常に職員間の連携を図り、統一した介護に務め虐待防止を心がけている、又問題点については朝礼、ミーティングを利用し意見を出し合い解決策を見出すよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>早出、遅出、半日などの出勤があれば利用者のペースに合わせられる。夜間の対応や利用者の状態の変化に応じ柔軟な体制がとられている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートであるなしを問わず全ての職員に研修等の参加を呼びかけ、希望者は参加できるよう配慮されている。研修参加者は、ミーティングや勉強会の中で報告し全員で共有できるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例検討会を通して事業所内外の方々の意見や経験を聞き、又市内連絡会での交流会、研修会及びスタッフ研修会を設けサービス、質の向上に努めている。		さらに充実した学習会や見学会など交流計画を検討しサービス、質の向上に取り組みたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の間関係や職員の悩み、ストレスを把握できるように気を配り、休憩室を確保することで充実した職場の環境づくりに取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・就業規則の確立と健康診断の実施 ・希望休制の取り入れ ・職員の資格取得に向けての支援配慮がなされている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談をするなかで本人の生活状態、心身状態の把握に努めお互いの信頼関係作りに努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思い、不安、希望など良く聴く機会をつくりどのような対応ができるかについて話し合い、お互いの信頼作りに努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時の本人ご家族の状況に応じて通所介護、訪問介護、ショートステイなどの必要なサービス利用支援につなげ柔軟な対応に務めるよう努力している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人ご家族にホームを見学していただき、職員や利用者との交流しながら安心感を持ってもらい徐々に信頼関係を築くようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩としての尊厳を大切に喜怒哀楽を理解し、ともに支え合える様に気をつけ、和やかに生活できるよう心がけている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との情報交換を密に行い、家族の思いも受け止め、スタッフ間でも情報を共有し家族の理解と協力を得ながら支援している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望される時は、体調などに気配りして外出・外泊できるようにしている。又、年間行事のおりにはか家族への招待も行い一緒に食事したりゆっくり談話ができるよう支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家に帰宅したり墓参りなどの支援とともに、家族を通じて知人の方にも連絡して面会していただけるよう利用者の生活や習慣に配慮している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>お茶や食事の時間は職員も同席し一緒に会話など楽しめるよう心がけており、利用者同士の意見の違いやトラブルには職員が調整役となるように注意深く見守り支援を心がけている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されて方にはお見舞い、声かけをしたり、又退所された方には行事の際招待したり継続したお付き合いができるよう工夫している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の声かけ、見守りを行う中で一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。又意向のはっきりしない方については家族から情報をもらいながら本人本位に暮せるよう、検討支援を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話のなかで把握に努め、家族との信頼関係を図りながら生活面などのバックグラウンドを知り統一したケアサービスができるよう心がけている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズム心理状態有する力に注目し、ミーティングなどで話し合い職員全体が本人の全体像を把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮せるよう本人家族の要望を聞き、関係者の意見を含めて検討会で話し合い介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する介護記録や本人家族スタッフなどで話し合い、状況に応じて計画の見直し作成をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し職員全員に情報が届くようにしておりそれを基に計画の見直し評価や実践を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人・家族の希望などに応じて、通院や送迎などの支援やショートステイ、デイサービスの利用希望などにも柔軟な対応ができるよう支援の工夫をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や他の機関との連携を持ち本人と地域のさまざまな接点を見出し周辺地域の施設への働きかけやボランティアの協力をよびかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況においてボランティアの見守り支援を利用できるよう働きかけておりまた、必要に応じて外部のケアマネジャーとも連携を図っている。		地域包括支援センターの設立を待ち今後協働できるようにしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			地域包括支援センターの職員の方への運営推進会議参加のお願いと働きかけを行う。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医の継続した受診と協力医の休日、夜間診療の協力など急変時の対応にも適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科内科精神科医及び認知症専門医の受診支援を行い、情報指示助言などを受けながら利用者本人の個別支援をおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており健康管理や状態変化時にいつでも対応できるようにしている。又個々の薬剤管理も行っており必要時は医療機関とも連携がとれている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報提供を行い、スタッフは時々見舞いに行って入院中の不安を軽減できるよう支援している。又医療機関及び家族との連携を図りながら早期退院へ向けてのアプローチも行っている。		家族とも連携を図り回復状況など情報交換しながら、1日でも早く退院できるよう支援している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化にともない家族の考えもふまえて意思確認書の作成や、ホーム、医療機関、家族との話し合いを持ち終末期まで支援できるよう体制を整えている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や関係者の意思を確認するとともに医療機関家族の協力を得てスタッフでミーティングを重ね安心して最期を迎えられるように支援取り組みを行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性を含めてケアプランアセスメント及びこれまでの介護支援状況などの細かな情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への声かけ誘導の仕方や守秘義務などミーティングのなかで話し合い職員の意識向上に努めている。又個人情報に関する同意書を作成し利用者のプライバシー保護にも十分配慮されている。</p>	<p>介護記録など個人情報に関するものの保管場所が設置されている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>無理強いせず、利用者に合わせて本人が決めることができる、ゆとりを持った支援介護を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>園庭の散歩、利用者同士の訪室談話など見守りしながら、その時々その本人に合わせて個別性を尊重した支援に努めている。</p>	<p>日常生活のなかで時間的配慮をさらに考慮しミーティングなどで話し合いを深めたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせ美容室の利用や行事の時の化粧の支援、本人の好みの服装など細かい気配りを行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感を感じさせる食材を取り入れたり、又本人の苦手なものアレルギーなどに配慮し、別の食材に変更するよう対応しており職員も同じメニューと一緒に食べるよう務めている。</p>	<p>その時々体調を考慮しながら利用者の方と一緒に野菜の下ごしらえ、お絞配り下膳など取り組んでいる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>酒やタバコは本人の希望があればいつでも対応できる体制はできている。又、おやつ持込の制限はなく希望されればいつでも楽しんでいただけるよう支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の時間や習慣を把握しトイレ誘導することで失敗を少なくするよう支援する。又オムツ使用者については時間回数は決めずこまめにチェックして清潔を保つように努めている。		トイレでの排泄の自立に向けた支援を行う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否された場合は、翌日に変更したりシャワー浴にするなど利用者個々の体調に合わせその都度対応している。入浴中は入浴者の状態を把握し適切な声かけや介助を行っている。		地理的に寒いため冬場の早朝・夜間の入浴は無理である。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の体調や表情行動など考慮しレクリエーション体操など取り入れ正常な生活リズムづくりを支援し夜間安眠できるよう援助している。又必要な方には主治医と相談の上薬剤使用し睡眠の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり又雑巾縫いや野菜の下ごしらえなどできることは手伝ってもらい、必ず御礼のことは伝える。又、ドライブなどの気晴らしの実施なども行っている。		床掃除洗、洗濯物たたみ、体操や歌踊りなど楽しみ場面作り、コミュニケーション作りなど心がけている。障害のレベルが進んでもその人の出来る役割楽しみを見つける努力をする。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談の上本人の希望や力量に応じて、小額のおかねを持っている方もいる。病院受診の帰り店に立ち寄り移動販売のパンを買って支払いをするなど、必ず職員が見守りながら支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望、体調、天気など考慮しつつ心身の活性につながる様散歩やドライブを計画し実践支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰宅や墓参りなど家族と相談し協力を得て実現に向けて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方と相談の上で理解を得ながら家族への電話依頼や手紙を出すなど気軽に対応支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、訪問時間に制限はなくいつでも気軽に訪問していただけるよう務めている。又、個室であり他の利用者への気遣いなくゆっくり談話していただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを目標にしており全職員が、拘束により利用者が受ける身体的精神的弊害についてミーティング勉強会などの中で意見交換しながら取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけずチャイムが鳴るようにしている、利用者の外出の行き先やパターンを把握し出て行きそうな気配を見落とさないように声かけ見守りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者だけにならないよう所在を確認し職員同士声かけし、安全面での配慮見守りを行っている。又夜間でも時間ごとに巡視を行い、見守り気配りをおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての物を利用者から取り上げるのではなく、嚴重に保管すべき物、保管整理が必要な物、利用者がかねて必要な物に分けて保管し要望に応じその都度安全に見守りながら、支援援助している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態から予測される危険を検討し、又防災訓練や救急講習会などの実施やヒヤリハットの記録を行い日常の事故防止に活かして行けるよう職員間の共有認識を図っている。		転倒見守り、介助気配りに注意している。薬の保管場所の把握と誤薬のないよう顔と名前の確認と意識付け。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急蘇生術の講習を受講させてもらっている。又、夜間の緊急事対応についてマニュアルを作成し全職員で再確認するよう務めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力、指導を受け水害火災などの事故発生時の避難訓練避難経路の確認及び消火器の使い方、通報の仕方など定期的に指導を受けている。。		非常用の食料品の確保及び備品の点検。夜間の緊急時の連絡の実施と訓練の徹底。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの日常生活の中で起こり得るリスクについて、申し送りミーティングなどで状況変化に応じて対応策を話し合い家族との話し合いのなかで連絡理解を得るようにしている。		起こり得るリスクについては、個別的に定期的に見直しを行なっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態は、常に職員が把握しており毎朝のバイタルチェックの際異常及び顔色不良食欲不振など以上の早期発見に努め、状態に応じて管理者への報告主治医の受診などを行い結果は、職員全体で共有し家族へもすみやかに連絡をする。		状況により早期の医療受診につなげている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の説明書をファイルしておき、職員がその内容を確認できるようにしている。服用時は名前を確認し服用出来ているかまで、しっかり見守り介助するよう務めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックをおこなっている。便秘予防のため繊維質の多い食材の活用乳製品水分補給を行い、毎日の運動の働きかけを行い自然排便できるよう支援する。		戸外への散歩など運動への働きかけを行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き義歯洗浄の支援と口腔ケアの介助をおこなっている。		歯科医師の口腔ケアの研修を実施し勉強会を行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立づくりと摂取量の把握及び水分補給を心がけ、嗜好品の取入れを行いミキサー食キザミ食トロミアップなどの支援をおこなっている。		栄養指導勉強会の実施。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防マニュアルが作られており、利用者職員全員が予防接種を受けている。又、ペーパータオル消毒液の設置うがい手洗いの徹底を行っている。		外部からの感染状況の把握に努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、フキンは使用前後に消毒を行い、冷蔵庫内も点検掃除をして古い食材は処分している。又、常に新鮮で安全な食材を使用するようにして清潔を心がけている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節のはなを飾ったりプランターを置き、明るい雰囲気作りをしている。又、外にはウッドテーブルが置かれ庭先でもお茶を飲み会話が楽しめるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ飾り付けには、利用者の意見をまじえながら行っている。夏はヨシズを使用したり冬は玄関にストーブをおき、安全を確認しながら暖をとるゆりのある暮らしを支援する。		季節の花の飾り付けを行っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のそばにソファを置いたり又、気のあった利用者同士のテーブルの配置などで常に居心地よく過ごせる雰囲気作りを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で馴染みの物を居室内においたり、ベッドの位置や高さの調整、家族の写真やお位牌の持込など、本人が居心地よく過ごせる雰囲気作りを支援している。		使い慣れた時計やラジオなど小さな物でも持って来てもらい安心して過ごせるよう気配りしている。カーテンが統一されているのが少しさびしい感じがする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状態に応じて喚起やエアコンの温度調節を行い又、トイレの悪臭については常にトイレ清掃に心がけ消臭材換気扇を使い汚物は、すみやかに処理するよう気配りを心がけている。		季節感を失わないような工夫をする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺りが設置され、廊下にはよけいな物がなく安全に移動できる。又、シルバーカーや歩行器など一人ひとりの機能に応じてそれぞれ安全な活動維持に努めている。		物干しの高さが高いため干す前の作業を手伝っていただく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて、環境整備に努めている。又、トイレの表示居室入り口に目印をつけ分かりやすくしている。状態が変わったらその都度職員全員で話し合い、不安を取り除きながら力を取り戻すよう工夫支援をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑の草取りを手伝ってもらったり、車イスの方が玄関のスロープから外に出ることもできる。又、庭にテーブルがあり建物の周りを散歩したりして気分をリフレッシュできるような支援を心がけている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業運営者、管理者、職員間の連携は良く出来ていて、利用者の変化や状況の把握を全員が共有している。

介護の勉強、研修会に職員・パートの別なく県内外に出かけ取り組んでいる。

訪問者への対応や気配りに配慮している。

地域との交流(夏祭り、敬老会、クリスマス会など)にもっと力を入れていきたい。



